

令和 5 年 5 月 12 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18H03576

研究課題名（和文）統合史資料画像データの生成と駆動方式の確立による人文科学研究基盤の創出

研究課題名（英文）Creation of Humanities research infrastructure by generation of integrated historical material image data and establishment of its driven method

研究代表者

山田 太造（YAMADA, Taizo）

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：70413937

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 32,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、長年に渡り蓄積してきた多様な人文科学データに対して、これまでの横断検索や画像アノテーションでは実現し得なかった有機的かつ意味的なデータ表現・提示を行うために、統合史資料画像データを作成・共有していくことで史資料データの統合を実現する。さらに、潜在的に関連する史資料を検出していく手法にも取り組んでいく。特定のシステム・機関に依存するのではなく、人文科学研究に広く汎用的に活用できるように提案し、実装していくことで、統合史資料画像データ駆動型人文科学研究基盤の確立につなげていく。

研究成果の学術的意義や社会的意義

収集した史資料画像を単にWebを介して提示した時代に終わりを告げ、提示している画像は何であるか、何と関連するか、どのように利用できるのか、など二次的に利用したり、提示している目的とは異なる利用を可能にしていくシステム基盤を明らかにし、さらに具体的なデータ提供環境を整理し、実装し、サービスに供したことは人文学研究資源の利活用において大変重要な意義を持つと考えている。また、デジタルデータとして蓄積されていく史資料画像を中心とした人文学研究データについて、その生成・管理・提供までのフローを確立し、さらに国際ワークショップで議論できたことは他分野に見劣りしない大いなる研究的前進であると考えている。

研究成果の概要（英文）：This study aims to realize the integration of historical data by creating and sharing integrated image data of historical materials in order to provide meaningful and systematic data expression and presentation for the various humanities data accumulated over the years, which has not been possible with conventional cross-search and image annotation. In addition, we will address methods for detecting potentially related historical materials. We will propose and implement a system that is not dependent on a specific system or institution, but can be used widely in humanities research, leading to the establishment of an integrated historical material image data-driven research infrastructure for the humanities.

研究分野：データ工学

キーワード：史資料画像 IIIF データ駆動 機械学習

## 1. 研究開始当初の背景

昨今の計算機の性能向上や低コスト化により、人文科学研究資源においてもデータベースの構築・公開が容易になった。国文学研究資料館(以下、国文研)「電子資料館」、国立歴史民俗博物館(以下、歴博)「データベースれきはく」、国立国会図書館 NDL Search、奈良文化財研究所(以下、奈文研)データベース、SAT 大正新脩大蔵経データベース、東京大学史料編纂所(以下、史料編纂所)歴史情報処理システムにおけるデータベース(以下、SHIPS DB)などが代表例である。その多くは人文科学研究プロセスにおいて生成された研究資源をデータベース化しており、書誌・史資料など所蔵物の目録だけでなく、文献における本文、人名、地名、文字などを多種多様なデータが格納・管理・提供されている。また、国立国会図書館、国文研「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」、史料編纂所「史料デジタル収集の体系化に基づく歴史オントロジー構築の研究」(科研費・基盤研究(S), H20-24, 研究代表者:林謙)などの機関や研究プロジェクトにより史資料に対するデジタルアーカイブ化が急速に行われ、史資料に関するデジタル画像が膨大に生成されている。これらはデータベースを介して、もしくはデータセットとしてウェブサイトより公開されるようになった。しかしながら、これらのデータベースは個々に検索・抽出してデータを取得する必要がある、人文科学の多様なデータを一元的、かつ、統合的に取得することはできない。こうした課題に対しては、NDL Search、人間文化研究機構統合検索システム nihuINT、欧州連合の欧州委員会による Europeana など、諸機関の史資料データを横断検索するシステムがあるものの、史資料の一面のみを検索するような表面的な検索およびデータ取得に過ぎず、史資料の網羅的、包括的、かつ、適切に紐付けて提示していく検索・データ取得を実現するには至っていない。先にあげた国文研プロジェクトのように、目録に応じて史資料の画像を提示するだけでなく、画像に対するアノテーション・索引付け等により、画像を検索しやすくする手法を適用している例もあるが、取得した画像データから、種々の人文科学研究データを関連付けて取得するまでには至っていない。

史料編纂所は、日本史に関係する史資料を中心に、目録や所在・管理に関するデータだけではなく、解説文(解題)、本文、索引、画像、文字などのデータも生成・蓄積してきた。これらは、史料編纂所が100年以上に渡って行ってきた、研究素材となる史資料の調査・収集、翻刻・索引付け、史料批判などの歴史学研究成果であり、2017年3月時点で、約530万レコード、約6億文字の巨大な人文科学研究データへと成長した。これらのデータは30ものデータベースに、その構築目的に応じて個々別々に格納されている。

膨大かつ多様なデータに対し、今扱っている、もしくは必要としているデータを、単に横断検索するのではなく、意味的文脈の中で抽出し、さらに、取得したデータから革新的な解釈や認識を引き出せるような、データ統合およびそれに基づく検索機能を実現するならば、蓄積されてきた人文科学研究データのプレゼンスのみならず、各研究プロセスにおける、真に必要なデータの獲得が可能になるだろう。これにより、今後の人文科学研究の発展に欠かせない研究基盤として、データベースの重要性が再認識されるはずである。

## 2. 研究の目的

本研究は、長年に渡り蓄積してきた目録、画像、本文、索引、文字など大量かつ多様な人文科学データに対し、これまでの横断検索や画像アノテーションでは実現し得なかった、有機的かつ意味的なつながりを備えたデータ構築の手法を確立することを目的に据える。史資料は目録データにより管理・識別されているため、目録をベースに統合していくことも考えられるが、史資料に込められていた多様な情報も統合していくためには、アーカイブされた史資料画像を中核に据えて構造化することが最適と考え、史資料画像を中心としたデータ統合を実現していく。諸データを付加した統合史資料画像データの生成を実現していく。

画像をベースとして種々のデータを統合し、統合史資料画像データとして生成していくために、まず1.統合史資料画像データ生成手法の確立を行う。史資料の性格・種類・形態ごとに紐付けられるデータは異なる。紐付けていくデータの取得先や、画像内の紐付けるべき領域の選定といった、さまざまな課題を洗い出し、多角的に検討を行い、データ作成手法を確立していく。

次に、2.統合史資料画像データ管理システムの構築を行うことにより、統合史資料画像データの格納・管理、さらに検索・提示についても可能にしていく。1.で述べたデータ作成手法に基づいた統合史資料画像データの生成をサポートし、さらに共有していくため、デジタル画像を公開し共有するための国際的なフレームワークである International Image Interoperability Framework(IIIF)に対応した統合史資料画像データキュレーション機能を提案する。1.と2.は補間しあう関係であり、データ生成手法の洗練に応じてシステムのチューニングを行っていく。またシステムにおけるユーザインターフェースの利便性を高めることで、データ生成手法のさらなる洗練を進めていく。

統合史資料画像データには、史資料の種類や伝来、そこに記載されている人物・空間・時間などの多角的な情報をもつことから、それらを媒介として有機的に関連するデータ群が膨大に存在することが予想される。こうした特性を活用して、3.潜在的関連史資料の検出に取り組む。統合

史資料画像データを研究者が探索・分類していくのはもはや不可能といえるデータサイズであり、データベースの種類も多いためパラメータの数も膨大である。そこで、機械学習、人工知能、データ工学の手法・技術などの情報工学的アプローチに基づき、関連する統合史資料画像データを検出していく。併せて、有機的・意味的に関連する統合史資料画像データが真に提示されているかについて、検証を行い、機械的な提示手法を改善していく。

上記を実現していくことで、多様な史資料データを画像ベースに統合していくことで統合史資料画像データの生成、検索、提示、関連データ提示、という一連のプロセスが実行される。また、特定のシステム・機関に依存するのではなく、人文科学研究に広く汎用的に活用できるように分担者・連携研究者との協議を重ねていく。これらにより、真にユニバーサルな統合史資料画像データ駆動型人文科学研究基盤の確立につながっていくはずである。

### 3. 研究の方法

#### 1. 統合史資料画像データ生成手法の確立：

構築を進める史資料画像データ統合基盤の汎用性・有用性を確かめていくため、a. 部分画像間でのデータ統合、b. 荘園絵図のような大判絵図画像の比較と画像内へのデータ付与、c. 史資料画像とそれに紐づくデータの統合、の3パターンへ適用しデータ作成の手法を確立していく。

a. では文字画像のような部分画像を比較し統合しうる統合史資料画像データ生成手法を確立していく。b. では大判の画像を対象に、絵図に記述されている本文や寺社・池・川などの特徴的な描画などの絵図内の部分画像に対して、メタデータ・アノテーションを見出し、さらに他の絵図との比較において重要なデータ項目についても洗い出し、それに応じて統合史資料画像データを生成していく手法を確立する。c. では、文献資料に対して、目録、本文、解題、索引等を画像に統合していく手法を確立していく。また、これらのデータ生成手法における課題を、2. で構築を進めるシステムへフィードバックし、さらなるシステムの効率化・深化に努める。

##### a. 文字画像

DBの「電子くずし字字典DB」および奈文研「木簡画像データベース・木簡字典」を横断検索するためのシステムである『電子くずし字字典データベース』『木簡画像データベース・木簡字典』連携検索システムをベースに、文字画像におけるデータ統合方式を検討していく。この連携検索システムは、Dublin Coreメタデータセットを用いてデータを記述し機関間連携を行ってきた。様々な経験や課題の蓄積があり、まずはこのデータから統合史資料画像データの生成と連携の実験を行う。また、従来の連携検索システムではシンプルなシステム構築を目指した結果、それぞれのデータベースで格納しているデータ項目のうち、共通しない項目を除外しているが、これをも組み入れていく手法を検討し確立していく。さらに、漢字字体規範データベース(HNG)のような他の文字画像データベースに対しても連携しうるデータ生成手法に洗練していく。

##### b. 絵図史資料画像

荘園等の絵図は一般的な古文書・古記録に比べ大型であり、関連付けられたデータも多岐にわたる。SHIPS DB「史料編纂所荘園絵図模本DB」では、絵図画像を分割し、それぞれの分割範囲内で解説や翻刻を示しているに過ぎない。既に美術資料を中心に行われている特定の画像領域を指定してメタデータを付与する方法論を取り入れながら、更に空間・テキスト等のデータを盛り込むことで、従前のDBで実現できなかった機能を実体化する。また、データベースれきはくの「日本荘園」が保持する荘園自体の位置データ、関連する典拠・論文データとの連携を展開することで諸データについて絵図画像を軸として統合していく手法を検討し、実現していく。

##### c. 古文書・古記録等の文献資料画像

史資料に関する多様なデータを画像に統合していく。a. および b. で獲得した手法を前提にしつつ、さらなる課題に切り込んでいく。絵図や文字画像と異なり、1 史資料中のテキストから紐付けられるデータ量の膨大さが予想される。そこで、まずは本文・人名・地名・文字などにデータタイプをしぼり、紐付けられるデータを洗い出し、表現方法を確立していく。統合史資料画像データとしての組み込み方法を検討・確立し、適用を進めていく。素材として、研究代表者や分担者が既に分析を進めている『信長公記』や『上井覚兼日記』を用いる。史料編纂所はこれら史資料原本および写本を多数所蔵し、かつ、テキストもデータベース化されているなど、史資料画像にデータを統合していく条件は整っている。まだデジタル画像がない、もしくはデータベース化されていない関連史資料については、適宜調査・撮影・デジタル化を行い、素材として組み入れていく。

#### 2. 統合史資料画像データ管理システムの構築：

統合史資料画像データを格納・管理し、検索・提示していくための基盤を確立し、構築していく。1 の成果に基づき、統合史資料画像データの構造を精査し、効率的に管理する手法を見出していく。現在、画像自体が何であるかを提示する仕組みとして IIIF Presentation API が公開され、急速に広まりつつある。また、画像に対するアノテーションを提示することが可能な Curation API も公開されている。この API およびその機能を、1 の手法にもとづいて拡張・オーバーライドしていくことで、統合史資料画像データスキーマを決定し、データ提示手法を確立していく。さらに統合史資料画像データを生成・共有していくための統合史資料画像データキュレーション機能を提案し、実装していく。本文データは国際的な文献資料のマークアップ・共有のためのガイドラインである Text Encoding Initiative による TEI P5 を用いる。さらに IIIF の各種 API での利用の実現を実現するとともに、統合史資料画像データを検索しこれを提示するための検

索システムについても構築を行う。

### 3. 潜在的関連史資料の検出：

1 および 2 の成果に基づき、史資料の人名・空間・時間・事項などの内容を示すデータ、画像自体、さらに史料編纂所で構築を進めている歴史情報リポジトリ（人名・地名・文字をその出典とともに蓄積）などを援用することで、意味的に関連する史資料画像を検出し、関連付けていく。関連が明示的ではない史資料画像をも検出していくため、機械学習の手法、例えば、Latent Dirichlet Allocation(LDA)に代表されるトピックモデル、Convolution Neural Network(CNN)に代表されるディープラーニングなどを用いる、もしくはこれらを組み合わせることで機械的に潜在的に関連する史資料画像を検出していく。ここでは『上井覚兼日記』および『信長公記』を例として検証を進める。また、関連史資料画像提示のためのアプリケーションを構築し、機械的な検出手法による史資料画像提示が本質的に関連するかどうかを評価し、検出のためのアルゴリズムを改善していく。

### 4. 研究成果

本研究では史資料における多様な史資料データをアーカイブされた史資料画像を中核に据えて構造化していく統合史資料画像データの生成に向けて、おもに以下の3つの課題を解決してきた。

1. 統合史資料画像データ生成手法の確立：汎用かつ有用な史資料画像データ統合基盤を確立するため、以下の2つに取り組んだ。

a. 文字画像データ：東京大学史料編纂所（以下史料編纂所）歴史情報処理システムにおけるデータベース SHIPS DB「電子くずし字字典 DB」および奈良文化財研究所「木簡庫」との連携検索システムを拡張し、他機関の文字データベースの参入を可能にしつつ、文字画像データを中心とした新たな連携検索システム「史的な文字データベース連携検索システム」のシステム基盤を、JSPS 科研費（18H05221）との共同により、検討し、2019年度には実証試験版を公開した。2020年度には本運用を開始した。文字データの時間的・空間的特徴を整理し、その結果の可視化手法を検証し、「歴史資料・古典籍の字形探索」サービスとして公開した。

b. 古文書・古記録等の文献資料画像：『上井覚兼日記』および天正・慶長期の島津家に関連する史資料について宮崎県下（都城島津邸および宮崎県総合博物館所蔵）、熊本県人吉市、柳川古文書館など九州を中心に調査・収集を行った。『上井覚兼日記』に関わる史資料とその画像、登場する人名・地名を関連付けていき、さらに他史資料へ関連付け手法の確立を進めた。2021年7月には、JSPS 科研費 18H00698 とともに、都城島津邸との連携により、『都城島津邸所蔵史料』の画像約 11,000 点を Hi-CAT Plus より公開した。

2. 統合史資料画像データ管理システムの構築：史料編纂所前近代日本史情報国際センターとの共同により、史料編纂所における画像データに対し利用条件設定を行い、SHIPS DB「所蔵史料目録 DB」に対し、IIIF Presentation API を設置し、新たに mirador と呼ばれる IIIF Presentation API を利用できる画像ビューアを導入した。また史料編纂所が編纂・出版した史料集の版面画像閲覧サービス「史料集版面ギャラリー」を公開した。史料編纂所以外の所蔵史料に関する画像データベースである Hi-CAT Plus への適用を行った。さらに IIIF Presentation API の manifest を活用すべく改良の検討を進めた。2022年8月より稼働する新しい史料編纂所データベース検索サービス SHIPS DB への適用方法についても、画像ビューアのプロトタイプングを行うなどの検証を行った。Hi-CAT Plus にて 2022年度には岩倉友美関係史料』『松尾大社所蔵史料』のデータを公開するに至った（JSPS 科研費 19H01303, 19H00549 などと連携）。国際ワークショップ「Workshop of Frontiers in Humanities research Data Management in conjunction with DH2022」を開催し、人文科学における研究データとしての史資料等のデータ管理に関する議論を日本で初めて行った。

3. 潜在的関連史資料の検出：1 および 2 の成果に基づき、Latent Dirichlet Allocation(LDA)に代表されるトピックモデルの適用を検討し予備実験を行った。その上で『上井覚兼日記』における本文データ構造の再構成を行った。さらに史料編纂所前近代日本史情報国際センターとの共同により、日本史史料の収集・蓄積・分析・提示といったフェーズを検討し、トピックモデルの適用のための条件、データ変換、検索への適用といったデータ駆動型の日本史データフローについて検討し予備実験を開始した。

史料編纂所で構築している歴史情報リポジトリ(人名・地名・文字をその出典とともに蓄積)の拡充に務めた。鎌倉時代後期から南北朝期の記録である『後愚昧記』および『建内記』の人名索引データ作成を行った。また、鎌倉時代の記録である『民経記』を用いて、人名等の固有表現抽出手法を検証し、潜在的関連史資料の検出手法および可視化手法の確立を進めた。『後愚昧記』など南北朝期の史資料を対象としたトピックモデル STM を用いた史料分類手法を実施するなど、潜在的関連史資料の検出手法および可視化手法の深化に努めた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計89件（うち査読付論文 33件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 23件）

1. 著者名 山田太造	4. 巻 1000
2. 論文標題 デジタル化される日本史史料の現状	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 2-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Taizo Yamada, Satoshi Inoue	4. 巻 -
2. 論文標題 A Flow for Digitizing Japanese Historical Materials and their Long-Term Use	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Proceedings of Digital Humanities Conference 2020 (DH2020)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 渋谷 綾子, 山田 太造, 渡邊 要一郎, 平澤 加奈子, 大向 一輝, 金子 拓, 山家 浩樹, 保谷 徹	4. 巻 -
2. 論文標題 日本史史料の長期利用とデータ共有・連結化に向けたシステム環境整備	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 じんもんこん2020論文集	6. 最初と最後の頁 23-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 渋谷綾子, 野村朋弘, 高島晶彦, 天野真志, 山田太造	4. 巻 31
2. 論文標題 考古学・植物学を活用した松尾大社蔵史料の料紙の構成物分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究紀要	6. 最初と最後の頁 59-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鳥居克哉, 中村覚, 山田太造, 稗方和夫	4. 巻 83
2. 論文標題 日本史学者の要求分析に基づく歴史資料のトピック推定システムの開発	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 情報処理学会第83回全国大会	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Taizo Yamada	4. 巻 -
2. 論文標題 Development of a Historical Data Repository for the Distribution Platform of Japanese Historical Materials	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Japanese and Asian Historical Research in the Digital Age	6. 最初と最後の頁 83-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 金子 拓	4. 巻 31
2. 論文標題 太田牛一『信長記』振仮名覚書	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所「研究紀要」	6. 最初と最後の頁 14-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山家浩樹	4. 巻 870
2. 論文標題 天龍寺供養とその後	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 16-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山家浩樹	4. 巻 -
2. 論文標題 尊経閣文庫所蔵『碧山日録』解説	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 尊経閣善本影印叢書75『碧山日録』2	6. 最初と最後の頁 217-226
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小塩慶,尾上陽介	4. 巻 31
2. 論文標題 陽明文庫所蔵『臨時祭之事』および紙背『貞観政要』について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『東京大学史料編纂所研究紀要』	6. 最初と最後の頁 75-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本郷恵子	4. 巻 863
2. 論文標題 書評と紹介 倉本一宏編『説話研究を拓く：説話文学と歴史史料の間に』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 79-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本郷恵子	4. 巻 47-2
2. 論文標題 中世の災厄と無常観	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 精神療法	6. 最初と最後の頁 83-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上聡	4. 巻 31
2. 論文標題 所史史料調査の現状と展望 本所所蔵『往復』を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究紀要	6. 最初と最後の頁 284-303
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 畑野吉則・馬場基・桑田訓也・高田祐一	4. 巻 -
2. 論文標題 史的文字データベース連携検索ポータルサイトの公開	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 奈良文化財研究所紀要2020	6. 最初と最後の頁 48-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前川歩・丹羽崇史・今井晃樹・浦蓉子・村田泰輔・馬場基・岩戸晶子	4. 巻 -
2. 論文標題 平城宮東方官衙地区の調査 第615次	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 奈良文化財研究所紀要2020	6. 最初と最後の頁 144-158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 馬場基	4. 巻 14(7)
2. 論文標題 「ひと」を感じ「相手」に寄り添い見えてくるものとは?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Nursing BUSINESS	6. 最初と最後の頁 577
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 馬場基	4. 巻 14(8)
2. 論文標題 古代人に学ぶ天平時代の感染症対策	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Nursing BUSINESS	6. 最初と最後の頁 673
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 馬場基	4. 巻 14(9)
2. 論文標題 古代の社会システムから今の生き方を考える	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Nursing BUSINESS	6. 最初と最後の頁 769
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 馬場基	4. 巻
2. 論文標題 竹簡について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日韓文化財論集 奈良文化財研究所学報第100冊	6. 最初と最後の頁 255-269
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永崎研宣	4. 巻 4-1
2. 論文標題 デジタルアーカイブにおけるテキスト検索を考える：みんなで翻刻サーチの構築を手がかりとして	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 デジタルアーカイブ学会誌	6. 最初と最後の頁 73-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24506/jsda.4.s1_s73	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 永崎研宣	4. 巻 4-2
2. 論文標題 デジタルアーカイブにおけるテキスト検索を考える：みんなで翻刻サーチの構築を手がかりとして	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 デジタルアーカイブ学会誌	6. 最初と最後の頁 241-244
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24506/jsda.4.2_241	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 永崎研宣, 大向一輝, 下田正弘	4. 巻 2020-124- 5
2. 論文標題 仏教研究におけるテキスト検索の現状と課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 研究報告人文科学とコンピュータ	6. 最初と最後の頁 75-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永崎研宣, 大向一輝, 下田正弘	4. 巻 2020
2. 論文標題 仏教文献研究のためのIIIFの活用における諸課題の解決に向けて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 じんもんこん2020論文集	6. 最初と最後の頁 75-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡邊要一郎, 永崎研宣, 朴賢珍, 王一凡, 村瀬友洋, 渡邊眞儀, 大向一輝, 下田正弘	4. 巻 2020
2. 論文標題 大正新脩大蔵經の構造的記述に向けて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 じんもんこん2020論文集	6. 最初と最後の頁 61-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井 圭佑 , 森 信介 , 後藤 真	4. 巻 -
2. 論文標題 人名辞典からの知識抽出	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 じんもんこん2020論文集	6. 最初と最後の頁 11-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 亀田 堯宙 , 後藤真	4. 巻 -
2. 論文標題 地域歴史資料情報基盤のデータモデル構築: 保存・発見・活用の高度化にむけて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 じんもんこん2020論文集	6. 最初と最後の頁 165-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小川歩美, 堀井美里, 堀井洋, 川邊咲子, 後藤真, 高田良宏	4. 巻 30(4)
2. 論文標題 研究会「学術野営 2020 in 奥州市」オンライン巡見に関する報告	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 情報知識学会誌	6. 最初と最後の頁 463-466
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2964/jsik_2021_009	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 堀井 美里 , 小川 歩美 , 寺尾 承子 , 堀井 洋 , 高橋 和孝 , 野坂 晃平 , 川邊 咲子 , 後藤 真	4. 巻 30(4)
2. 論文標題 コロナ禍における地域資料の調査と情報共有・公開 - 岩手県奥州市を事例として -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 情報知識学会誌	6. 最初と最後の頁 477-480
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2964/jsik_2021_012	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Makoto Goto	4. 巻 -
2. 論文標題 Constructing Data Infrastructure for Diversity of Local Resources and Local Culture	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Japanese and Asian Historical Resources in theDigital Age	6. 最初と最後の頁 2-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 山田 太造 , 井上 聡 , 山家 浩樹	4. 巻 2019
2. 論文標題 日本史史料データ流通基盤に向けた歴史データリポジトリの整備	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 じんもんこん2019論文集	6. 最初と最後の頁 3-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 T. Yamada	4. 巻 15
2. 論文標題 A classification of a scene in a field note using topic model	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Geoinformatics	6. 最初と最後の頁 25-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 S. Hara, T. Yamada, M. Ishikawa, K. Shirai, A. Kameda, S. Mori	4. 巻 15
2. 論文標題 Prototyping information system to extract area study information from web big data	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Geoinformatics	6. 最初と最後の頁 57-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Taizo Yamada, Satoshi Inoue	4. 巻 8939645
2. 論文標題 Detection and Time Series Variation of Latent Topic from Diary in Northern and Southern Courts Period of Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of 2019 Pacific Neighborhood Consortium Annual Conference and Joint Meetings (PNC)	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤 真, 阪田 真己子, 松村 敦, 山田 太造	4. 巻 2019-CH-120
2. 論文標題 「人文科学とコンピュータ分野」における研究資源と情報技術を考える	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 研究報告人文科学とコンピュータ (CH)	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田太造	4. 巻 23
2. 論文標題 日本の地名・人名データベースから立ち上がる記憶のコミュニティー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会と調査	6. 最初と最後の頁 33-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原 正一郎, 山田 太造, 石川 正敏, 白井 圭佑, 亀田 堯宙, 森 信介	4. 巻 2019
2. 論文標題 WEBビッグデータからの地域研究情報抽出の試み (第二報)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 じんもんこん2019論文集	6. 最初と最後の頁 315-320
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田太造	4. 巻 31
2. 論文標題 オープンな歴史的な文字データを横断的に検索していく	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 第31回東洋学へのコンピュータ予稿集	6. 最初と最後の頁 119-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伴瀬明美	4. 巻 33
2. 論文標題 日本「皇后」的特質 以立后儀式為中心	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 古今論衡	6. 最初と最後の頁 59-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伴瀬明美	4. 巻 680
2. 論文標題 「新迎」「新迎え」について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 30-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤 真	4. 巻 29-4
2. 論文標題 持続可能な地域資料のためのデータ化・オープン化を考える	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 情報知識学会	6. 最初と最後の頁 309-314
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2964/jsik_2019_043	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 馬場 基	4. 巻 149
2. 論文標題 書評 原秀三郎著「日本古代の木簡と荘園」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 季刊考古学	6. 最初と最後の頁 108-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 馬場 基・高田 祐一・桑田 訓也	4. 巻 2019
2. 論文標題 IIIFの導入による木簡画像データベースの連携強化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 奈良文化財研究所紀要2019	6. 最初と最後の頁 18-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 馬場 基	4. 巻 848
2. 論文標題 奈良文化財研究所のICTへの取り組み	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 9-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 馬場 基	4. 巻 38
2. 論文標題 木簡学から見た日本語 文字についてー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本語学	6. 最初と最後の頁 16-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小風尚樹, 中村覚, 永崎研宣	4. 巻 2019
2. 論文標題 構造化記述された財務記録史料データの分析手法の開発: イギリスの船舶解体業を事例に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 じんもんこん2019論文集	6. 最初と最後の頁 183-190
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村覚, 佐治奈通子, 永崎研宣	4. 巻 2019
2. 論文標題 TEI とIIIF をベースとしたオン/オフライン併合型史料研究支援システムの開発 - オスマン・トルコ語文書群を対象として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 じんもんこん2019論文集	6. 最初と最後の頁 293-300
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上聡	4. 巻 831
2. 論文標題 「研究資源の生成・活用をめぐる」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 16-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤珠紀	4. 巻 727
2. 論文標題 中世の元号	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史と地理 日本史の研究	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 遠藤珠紀、須田牧子、田中奈保、桃崎有一郎	4. 巻 30
2. 論文標題 綱光公記 宝徳二年四月～五月記	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究紀要	6. 最初と最後の頁 170-178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤珠紀、宮崎肇、金子拓	4. 巻 67
2. 論文標題 『宣教卿記』天正三年六月～一二月	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 早稲田大学図書館紀要	6. 最初と最後の頁 82-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤珠紀	4. 巻 12
2. 論文標題 國學院大學図書館所蔵「神主竹内明久日次記」(座田文書)の解題と翻刻	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 國學院大學校史・学術資産研究	6. 最初と最後の頁 197-225
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤珠紀、金子拓	4. 巻 151
2. 論文標題 『兼見卿記』紙背文書(3)文禄三年春夏記・同秋冬記紙背	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ヒブリア	6. 最初と最後の頁 67-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤珠紀、金子拓	4. 巻 152
2. 論文標題 『兼見卿記』紙背文書(4)慶長二年記紙背	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ビブリア	6. 最初と最後の頁 67-91
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 尾上陽介	4. 巻 7
2. 論文標題 近衛家家司平時兼の日記(『御八講』)について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 田島公編『禁裏・公家文庫研究』	6. 最初と最後の頁 3-19
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鬼塚洋輔, 大山航, 山田太造, 井上聡, 内田誠一	4. 巻 2018
2. 論文標題 花押類似検索のための畳み込みオートエンコーダによる画像特徴抽出	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 じんもんこん2018論文集	6. 最初と最後の頁 257-262
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Taizo YAMADA, Satoshi INOUE	4. 巻 8579468
2. 論文標題 A Common Base of Knowledge for Japanese Historical Materials and its Application	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 2018 Pacific Neighborhood Consortium Annual Conference and Joint Meetings (PNC)	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mamoru Shibayama, Susumu Morimoto, Akiko Tashiro, Akihiro Kameda, Taizo Yamada, Shoichiro Hara	4. 巻 8579462
2. 論文標題 Building an Ontology-Oriented Archaeological Knowledge-Base "ArcOnBase" in Mainland Southeast Asia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 2018 Pacific Neighborhood Consortium Annual Conference and Joint Meetings (PNC),	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山田太造	4. 巻 2018-CH-118
2. 論文標題 収集史料の体系化と永続的な利用に向けた管理	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 研究報告人文科学とコンピュータ (CH)	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 馬場基	4. 巻 848
2. 論文標題 奈良文化財研究所のICTへの取り組み	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 9~13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上聡・谷昭佳・高山さやか	4. 巻 45
2. 論文標題 東京大学史料編纂所における史料デジタル撮影のあらましについて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 埼玉県地域史料保存活用連絡協議会会報	6. 最初と最後の頁 10~12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤珠紀・宮崎肇・金子拓	4. 巻 66
2. 論文標題 「宣教卿記 天正三年正月～五月記」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 早稲田大学図書館紀要	6. 最初と最後の頁 66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金子拓・遠藤珠紀	4. 巻 149
2. 論文標題 『兼見卿記』紙背文書(一) 文禄三年春夏記・同秋冬記支配	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ビブリア	6. 最初と最後の頁 77-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 久留島典子	4. 巻 第29号
2. 論文標題 「益田氏系図再考 史料編纂所寄託益田氏関係系図の紹介と考察」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『東京大学史料編纂所研究紀要』	6. 最初と最後の頁 10～31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山家浩樹	4. 巻 31
2. 論文標題 島津氏と禅宗寺院	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 黎明館調査研究報告	6. 最初と最後の頁 65-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西田友広	4. 巻 127-8
2. 論文標題 「法諺「訴え無くば、検断無し」の再検討」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 史学雑誌	6. 最初と最後の頁 35-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 永崎研宣, 下田正弘	4. 巻 2018
2. 論文標題 オープン化が拓くデジタルアーカイブの高度利活用: IIF Manifests for Buddhist Studiesの運用を通じて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『じんもんこん2018論文集』(2018年12月)	6. 最初と最後の頁 389-394
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤 真	4. 巻 974
2. 論文標題 「デジタルアーカイブ」とアーカイブズ,そして歴史学を取り巻く現在と未来 (歴史家とアーキビストの対話(第4回))	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 18-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤 真	4. 巻 2019
2. 論文標題 The Overall Picture of Digital Humanities and Integrated Studies of Cultural and Research Resources in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Integrated Studies of Cultural and Research Resources The National Museum of Japanese History	6. 最初と最後の頁 140-156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 高田智和・福山雅深・堤智昭・小助川貞次	4. 巻 15
2. 論文標題 資料画像公開・利用の国際化と高度化の取り組み 「日本語史研究資料 [ 国立国語研究所蔵 ] の事例	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国立国語研究所論集	6. 最初と最後の頁 163-176
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 井上 聡	4. 巻 1028
2. 論文標題 研究機関による歴史データベースの構築について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 155-163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上 聡	4. 巻 20
2. 論文標題 御家人の所領経営をめぐる	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 書物学	6. 最初と最後の頁 36-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上 聡	4. 巻 20
2. 論文標題 安保文書 - 北武蔵の中世武家文書	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 書物学	6. 最初と最後の頁 106-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 馬場 基	4. 巻 37
2. 論文標題 文献史料からみた国府	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 別冊季刊考古学	6. 最初と最後の頁 59-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 馬場 基	4. 巻 -
2. 論文標題 日本古代漢字漢字運用規範を木簡から探す	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 笹原宏之・澤崎文編『日本文学研究ジャーナル特集 上代文献と漢字』	6. 最初と最後の頁 25-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 尾上陽介	4. 巻 -
2. 論文標題 陽明文庫所蔵史料による料紙研究の可能性	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 渋谷綾子・天野真志編『古文書の科学』	6. 最初と最後の頁 153-161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 尾上陽介	4. 巻 -
2. 論文標題 陽明文庫所蔵『僧綱補任』について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 尾上陽介編『禁裏・公家文庫研究』第九輯	6. 最初と最後の頁 113-183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 尾上陽介	4. 巻 -
2. 論文標題 『基熙公記』の原本について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 尾上陽介編『禁裏・公家文庫研究』第九輯	6. 最初と最後の頁 239-257
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤珠紀, 尾上陽介, 藤井讓治	4. 巻 -
2. 論文標題 陽明文庫所蔵一般文書目録「消息」高精細デジタル撮影目録および索引	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 尾上陽介編『禁裏・公家文庫研究』第九輯	6. 最初と最後の頁 258-435
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 尾上陽介	4. 巻 -
2. 論文標題 『僧綱補任』下	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所・公益財団法人陽明文庫編『陽明文庫講座図録』4	6. 最初と最後の頁 7-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 尾上陽介	4. 巻 -
2. 論文標題 寺田無禅書状	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所・公益財団法人陽明文庫編『陽明文庫講座図録』5	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 尾上陽介	4. 巻 -
2. 論文標題 寓記	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所・公益財団法人陽明文庫編『陽明文庫講座図録』6	6. 最初と最後の頁 12-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村覚, 劉冠偉, 宮崎肇, 井上聡, 大山航, 山田太造	4. 巻 2022
2. 論文標題 花押を対象としたデータ駆動型歴史情報学研究の実践	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 じんもんこん2022論文集	6. 最初と最後の頁 171-178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田太造, 中村覚, 劉冠偉, 井上聡	4. 巻 2022
2. 論文標題 日本史史料データプラットフォーム構築に向けた取り組みと課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 じんもんこん2022論文集	6. 最初と最後の頁 249-256
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 劉冠偉, 中村覚, 山田太造	4. 巻 2022
2. 論文標題 研究資源としてのWEB APIの利用: 歴史資料・古典籍の字形を横断的に検索するアプリケーションの開発	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 じんもんこん2022論文集	6. 最初と最後の頁 165-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Liu Guanwei, Nakamura Satoru, Yamada Taizo	4. 巻 2022
2. 論文標題 A Unicode Input Support Tool for Searching Chinese Characters by Components and Stroke Number	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Proceedings of DH2022	6. 最初と最後の頁 653-655
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shibutani Ayako, Nakamura Satoru, Yamada Taizo, Yanbe Koki	4. 巻 2022
2. 論文標題 Developing a Comprehensive Application for Digital Transformation of Historical Materials	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Proceedings of DH2022	6. 最初と最後の頁 684-685
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakamura Satoru, Suda Makiko, Kuroshima Satoru, Inoue Satoshi, Yamada Taizo	4. 巻 2022
2. 論文標題 Building a Knowledge Base for Data- Driven Historical Information Research Infrastructure and Its Application with Historical Painting Materials	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Proceedings of DH2022	6. 最初と最後の頁 659-661
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shin N., Katsumata C., Miura T., Tsutsumida N., Ichie T., Kotani A., Nakagawa M., Khoon K.L., Kobayashi H., Kumagai T., Tei S., Punga R.A.S., Yamada T., Kameda A., Yanagisawa M., Nasahara K., Muraoka H., Ichii K., Tokumoto Y.	4. 巻 6
2. 論文標題 Perspective: Improving the accuracy of plant phenology observations and land-cover and land-use detection by optical satellite remote-sensing in the Asian tropics	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Frontiers in Forests and Global Change	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/ffgc.2023.1106723	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 久留島典子	4. 巻 235
2. 論文標題 中世武家所領と女性の相続 - 石見益田氏を素材に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中世武家所領と女性の相続 - 石見益田氏を素材に	6. 最初と最後の頁 125-143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計131件 (うち招待講演 64件 / うち国際学会 43件)

1. 発表者名 大向 一輝, 渡邊要一郎, 渋谷 綾子, 平澤 加奈子, 山田 太造, 山家 浩樹, 保谷徹
2. 発表標題 東京大学史料編纂所におけるデータインフラ整備の現状
3. 学会等名 2020年度統計関連学会連合大会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ikki Ohmukai, Taizo YAMADA, Yoichiro Watanabe
2. 発表標題 Long-term Utilisation, Data Sharing, and Linking of Japanese Historical Materials: Current Approaches by the Historiographical Institute of the University of Tokyo
3. 学会等名 Annual Conference of Association for Asian Studies 2021(AAS 2021) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伴瀬明美
2. 発表標題 9世紀日本における皇后不在に関する試論 天皇生母の処遇から考える
3. 学会等名 東アジア后位比較史研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伴瀬明美
2. 発表標題 訳注：『儀式』巻五、立皇后儀
3. 学会等名 東アジア后位比較史研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 尾上陽介
2. 発表標題 東京大学史料編纂所蔵『藤波家蔵文書記録目録』に見える『民経記』原本の構成
3. 学会等名 藤波家旧蔵史料調査の成果と課題
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 尾上陽介
2. 発表標題 藤原経光と『民経記』
3. 学会等名 広橋本プロジェクト研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 馬場基
2. 発表標題 長屋王家木簡と片岡
3. 学会等名 歴史リレー講座「大和の古都はじめ」第65回（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 馬場基
2. 発表標題 奈良時代のパンデミックと社会
3. 学会等名 第58回 日本医療・病院管理学会学術総会（WEB開催）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 馬場基
2. 発表標題 平城宮東方官衛弁官曹司
3. 学会等名 平城京歴史講座（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 馬場基（エクスカッション・パネリスト）
2. 発表標題 木簡から読み解く平城京 / 『日本書紀』
3. 学会等名 なら記紀・万葉集大成連続講演会 第2弾 日本書紀（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 馬場基
2. 発表標題 （日題：史的文字データベース連携検索システムの公開）
3. 学会等名 古代東アジア文字資料研究の現在と未来 （招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大山航・畑野吉則・馬場基
2. 発表標題 深層学習による木簡実測図の自動作成
3. 学会等名 じんもんこん2020
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 馬場基
2. 発表標題 木簡から見える奈良時代の食文化
3. 学会等名 奈良学入門（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 馬場基
2. 発表標題 松永弾正に負けた大和片岡氏別伝
3. 学会等名 靈山寺塾（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 馬場基
2. 発表標題 木簡の考古学
3. 学会等名 静岡SBS学苑 静岡新聞カルチャーセンター「古代史探訪」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 馬場基
2. 発表標題 古代の文字史料
3. 学会等名 国分寺市もとまち公民館古代を考える(2)「木簡から見えてくる天平びとの暮らし」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 馬場基
2. 発表標題 カツオが結ぶ平城京と遠駿豆
3. 学会等名 静岡県埋蔵文化財センター主催 令和2年度「富士山の日」歴史講演会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 馬場基
2. 発表標題 木簡から見えてくる天平という時代
3. 学会等名 国分寺市もとまち公民館古代を考える(2)「木簡から見えてくる天平びとの暮らし」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 馬場基
2. 発表標題 2020年度 KU-ORCAS 国際シンポジウム デジタルヒューマニティーズ推進のための環境構築とその課題
3. 学会等名 史的な文字DBとその利活用について(1)(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 馬場基
2. 発表標題 木簡にみる天平びとの”ツイート”
3. 学会等名 平城宮跡オンラインツアー「嗚呼、エキサイティングな平城宮跡！」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Cayless, Hugh; Scholger, Martina; Bermudez Sabel, Helena; Meneses, Luis; del Rio Riande, Gimena; Nagasaki, Kiyonori
2. 発表標題 Communicating the TEI Across Linguistic and Cultural Boundaries
3. 学会等名 Digital Humanities 2020
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Nagasaki, Kiyonori; Ohmukai, Ikki; Tomabechi, Toru; Shimoda, Masahiro
2. 発表標題 An Improvement of Collaborative Digital Scholarly Edition with IIF
3. 学会等名 Digital Humanities 2020
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kiyonori Nagasaki
2. 発表標題 Digital East Asian Studies and International Standards: A Case of a Project of Digital Buddhist Studies
3. 学会等名 Digital Modern Languages Seminar, Institute of Modern Languages Research (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年



1. 発表者名 Kiyonori Nagasaki
2. 発表標題 Leveraging IIIF for Buddhist Studies
3. 学会等名 2020 Korea-Japan Symposium on Digital Humanities (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 永崎研宣
2. 発表標題 コンテンツを起点とする情報の組織化の可能性
3. 学会等名 日本図書館研究会情報組織化グループ月例研究会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 永崎研宣
2. 発表標題 SAT大蔵経データベースにおけるIIIFとTEIの活用
3. 学会等名 協働型アジア研究オンラインセミナー「IIIFに準拠した画像公開の方法とTEIとの連携」 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 永崎研宣
2. 発表標題 人文学とデジタル人文学 教育をめぐる接点
3. 学会等名 京都大学文学研科公開シンポジウム「デジタル人文学の世界へ」 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 後藤 真
2. 発表標題 地域歴史資料と人文情報学からパブリック・ヒストリーを考える
3. 学会等名 パブリックヒストリー研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 後藤 真
2. 発表標題 モノ資料調査の可能性 奥州市の調査の経験から
3. 学会等名 学術野営2020in奥州市」関連オンラインイベント「新型コロナウイルスの感染が懸念される状況下での歴史・文化資料調査のためのガイドラインを考える」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 後藤 真
2. 発表標題 人文社会科学研究を公正に評価するシステム
3. 学会等名 日本学会会議
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 後藤 真
2. 発表標題 多様な歴史的資料消失の状況と課題
3. 学会等名 I-URICフロンティアコロキウム勉強会「分野横断型研究を目指したアーカイブのオープンサイエンス基盤を考える」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 亀田 栞宙, 後藤 真
2. 発表標題 地域歴史資料情報基盤のデータモデル構築：保存・発見・活用の高度化にむけて
3. 学会等名 じんもんこん2020 人文科学とコンピュータシンポジウム「オープンデータからオープンナレッジへ 新時代の研究様式が導く学術情報基盤」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Sakiko Kawabe, Akihiro Kameda, Makoto Goto
2. 発表標題 Documentation of Ethnographical Object Biography using CIDOC CRM
3. 学会等名 49th joint meeting of the CIDOC CRM SIG, 42nd FRBR SIG and ISO/TC46/SC4/WG9 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 後藤 真
2. 発表標題 大学における研究評価の現状と問題点ー人文系の評価を中心に
3. 学会等名 摂南大学・研究評価セミナー
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 後藤 真, 前山和喜
2. 発表標題 近代科学資料アーカイブ構築のための課題分析
3. 学会等名 総研大文化フォーラム2020「文化のレジリエンスとは？ 異をつなぎ、未来へ」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 後藤 真
2. 発表標題 「分野横断型研究を目指したアーカイブのオープンサイエンス基盤を考える」研究成果報告
3. 学会等名 I-URICフロンティアコロキウム勉強会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 後藤 真
2. 発表標題 研究者と自治体連携に関する勉強会
3. 学会等名 自治体データ連携（仮）勉強会 第1回
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤 真
2. 発表標題 産官学三者覚書及びkhirinについて
3. 学会等名 地域史研究講座2021 第2回奥州市記録資料調査事業報告会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤 真
2. 発表標題 2020年度の総合資料学プロジェクト
3. 学会等名 2020年度全体集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤 真
2. 発表標題 歴博・総合資料学から公開の新アーカイブ
3. 学会等名 UTDHアンカンファレンス1
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤 真
2. 発表標題 日本の歴史的な知識に対して総合的に寄与する人名知識ベースの構築
3. 学会等名 人間文化研究機構資源共有化研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Masashi Amano, Makoto Goto
2. 発表標題 Constructing international university network to preserve local historical resources.
3. 学会等名 AAS2021（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Akihiro Kameda , Makoto Goto
2. 発表標題 Digitization of Japanese Historical Resources and Establishment of Data Infrastructure
3. 学会等名 CRM SYMPOSIUM 2021（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yuta Hashimoto, Akihiro Kameda, Makoto Goto
2. 発表標題 Citizen Collaboration for the Preservation and Transcription of Historical Materials in the National Museum of Japanese History
3. 学会等名 C2DH Making History Together : Public Participation in Museums (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山田 太造
2. 発表標題 日本史史料データ流通基盤に向けた歴史データリポジトリの整備
3. 学会等名 じんもんこん2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Taizo Yamada
2. 発表標題 Detection and Time Series Variation of Latent Topic from Diary in Northern and Southern Courts Period of Japan
3. 学会等名 2019 Pacific Neighborhood Consortium Annual Conference and Joint Meetings: Human Rights in Cyberspace, PNC 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Taizo Yamada
2. 発表標題 Temporal change of personal name based on pre-modern Japanese historical materials
3. 学会等名 Workshop on Spatiotemporal Knowledge in PNC 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Taizo Yamada
2. 発表標題 Digitalization of pre-modern Japanese Historical Material by Historiographical Institute The University of Tokyo
3. 学会等名 2019 EAJRS conference in Sofia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山田太造
2. 発表標題 オープンな歴史的な文字データを横断的に検索していく
3. 学会等名 第31回東洋学へのコンピュータ利用
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Taizo Yamada
2. 発表標題 Usages and needs for temporal data gazetteers in studies about Japanese history
3. 学会等名 2019 International Workshop on Spatiotemporal Knowledge: Toward Sharing Resources about Spatiotemporal Information (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Taizo YAMADA
2. 発表標題 A Case Study on Digitalization Workflow and Data Management of Pre-modern Japanese Historical Material in Historiographical Institute The University of Tokyo
3. 学会等名 4th RsDA International (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山田太造
2. 発表標題 日本史史料の長期利用に向けたシステム環境整備
3. 学会等名 JGSS国際シンポジウム2020(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 後藤 真
2. 発表標題 企画セッション「人文科学とコンピュータ分野」における研究資源と情報技術を考える」
3. 学会等名 第120回人文科学とコンピュータ研究会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤 真
2. 発表標題 地域の歴史・文化資料のデータ化の課題とオープンサイエンス
3. 学会等名 Japan Open Science Summit 2019(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤 真
2. 発表標題 見える人文・見えない人文オープンな人文学情報基盤が作る未来
3. 学会等名 Japan Open Science Summit 2019(招待講演)
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 後藤 真
2. 発表標題 Usages and needs for gazetteers in studies about Japanese history
3. 学会等名 2019 International Workshop on Spatiotemporal Knowledge (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤 真
2. 発表標題 「総合資料学の創成」における大学とのデータ連携の実践
3. 学会等名 第14回日本博物科学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤 真
2. 発表標題 Constructing A New Science Framework In Japanese Historical Studies Through Digital Infrastructure
3. 学会等名 DH2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤 真
2. 発表標題 Towards Constructing An Ecosystem for Digital Scholarly Editions of East Asian Historical Sources: With the Focus on the TEI-Markup of the Engi-Shiki
3. 学会等名 DH2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤 真
2. 発表標題 Attempts at long-term preservation of historical resources and data - A case of ' Inter-University Research Institute Network Project to Preserve and Succeed Historical and Cultural Resources ' in Japan
3. 学会等名 4th Workshop on the Academic Asset Preservation and Sharing in Southeast Asia ( 招待講演 ) ( 国際学会 )
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤 真
2. 発表標題 歴史学・人文学のデータプラットフォームの可能性
3. 学会等名 データ社会創成シンポジウム ( 招待講演 ) ( 国際学会 )
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤 真
2. 発表標題 Current movement of "digital archive" and digital humanities in Japan
3. 学会等名 EAJRS2019 ( 国際学会 )
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤 真
2. 発表標題 Possibility of Digital Tools for Japanese history
3. 学会等名 Workshop The Digital Transformation - Implications for the Social Sciences and Humanities ( 招待講演 )
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤 真
2. 発表標題 Introduction of ISCR
3. 学会等名 パンドン工科大学・歴博ワークショップ(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤 真
2. 発表標題 Apply gazetteer to Japanese historical data
3. 学会等名 2019 Pacific Neighborhood Consortium Annual Conference and Joint Meetings (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤 真
2. 発表標題 Approach to preserve historical and cultural resources with data Infrastructure
3. 学会等名 0th Anniversary Kobe University Brussels European Centre Symposium (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤 真
2. 発表標題 Introducing Japanese “Digital Archive” and “Digital Humanities”
3. 学会等名 Workshop between KU and NMJH (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤 真
2. 発表標題 持続可能な地域資料のためのデータ化・オープン化を考える
3. 学会等名 第24回情報知識学フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤 真
2. 発表標題 コンピュータが読む日本語
3. 学会等名 人文機構シンポジウム「デジタルヒューマニティーズって何？」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 後藤 真
2. 発表標題 文化財情報マッピングと地域歴史文化財防災の可能性
3. 学会等名 第122回 人文科学とコンピュータ研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 後藤 真
2. 発表標題 地域歴史文化構築のためのデータネットワーク構築
3. 学会等名 第6回地域歴史文化研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 後藤 真
2. 発表標題 学術資料所有機関と大学間におけるデータのオープン化・共有化
3. 学会等名 第420回生存圏シンポジウム 生存圏データベース全国共同利用研究成果報告会 モノのデータベースから電子データベースまで - さまざまな学術データの新しい共同利用に向けて - (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 守岡知彦、劉冠偉、高田智和
2. 発表標題 漢字字体規範史データセット用従来型UI再生の試み
3. 学会等名 第120回人文科学とコンピュータ研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高田智和
2. 発表標題 大英図書館蔵天草版『平家物語』、『伊曾保物語』、『金句集』の画像公開
3. 学会等名 第30回日本資料専門家欧州協会年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 守岡知彦、劉冠偉、高田智和
2. 発表標題 漢字字体規範史データセットと単字検索
3. 学会等名 日本語学会2019年度秋季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高田智和
2. 発表標題 漢字字体規範史データセット単字検索
3. 学会等名 NINJALセミナー「日本語研究の基盤としての言語資源」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高田智和
2. 発表標題 中世多摩の文字づかい 板碑と経典文字からわかること
3. 学会等名 多摩郷土誌フェア講演会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小瀬玄士
2. 発表標題 島津家文書・樺山家文書からみる都城島津家史料
3. 学会等名 令和元年度島津伝承館企画展記念講演会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小瀬玄士
2. 発表標題 戦国織豊期における島津家年中行事をめぐって
3. 学会等名 2019年度尚古集成館講座
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 馬場 基
2. 発表標題 奈良時代の働き方改革
3. 学会等名 第57回日本医療・病院管理学会学術総会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 馬場 基
2. 発表標題 木簡情報のオープンデータ化と文字画像DB連携の強化
3. 学会等名 日本文化とAIシンポジウム2019「AIがくずし字を読む時代がやってきた」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 馬場 基
2. 発表標題 日本木簡の研究資源化的新展開（日本木簡の研究資源化的新展開）
3. 学会等名 首届中日韓出土簡牘研究國際論壇（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 馬場 基
2. 発表標題 文字史料から見た古代の塩
3. 学会等名 シンポジウム「日本列島における製塩技術史の解明 時代と空間の拡張から見えるもの」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nishioka Chifumi and Kiyonori Nagasaki
2. 発表標題 Log Analysis Method towards Understanding Detailed IIIF Image Usage
3. 学会等名 Digital Humanities 2019, Utrecht (The Netherlands) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kiyonori Nagasaki, A. Charles Muller, Toru Tomabechi, and Masahiro Shimoda
2. 発表標題 A Collaborative System for Digital Research Environment via IIIF
3. 学会等名 Digital Humanities 2019, Utrecht (The Netherlands) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Satoru Nakamura, Kazuhiro Okada, Kiyonori Nagasaki
2. 発表標題 An attempt of dissemination of TEI in a TEI-underdeveloped country: Activities of the SIG EAJ
3. 学会等名 TEI conference 2019, Graz (Austria) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuhiro Okada, Satoru Nakamura, Kiyonori Nagasaki
2. 発表標題 An encoding strategic proposal of “ruby” texts: Examples from Japanese texts
3. 学会等名 TEI conference 2019, Graz (Austria) (国際学会)
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 Kiyonori Nagasaki and Chifumi Nishioka
2. 発表標題 Visualizing which parts of IIIF images are looked at by users
3. 学会等名 IIIF conference 2019, Gottingen (Germany) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Satoru Nakamura and Kiyonori Nagasaki
2. 発表標題 IIIF Discovery in Japan
3. 学会等名 IIIF conference 2019, Gottingen (Germany) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kiyonori Nagasaki and Masahiro Shimoda
2. 発表標題 Alignment of Full Text Database with IIIF images
3. 学会等名 IIIF conference 2019, Gottingen (Germany) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Chifumi Nishioka and Kiyonori Nagasaki
2. 発表標題 Log Analysis Methodology to Understanding Detailed IIIF Image Usage
3. 学会等名 IIIF conference 2019, Gottingen (Germany) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kiyonori Nagasaki
2. 発表標題 Recent Trends of Digital Resources for Japanese Studies
3. 学会等名 2019 EAJRS (European Association of Japanese Research Specialists) conference, Sofia (Bulgar), (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kiyonori Nagasaki
2. 発表標題 Recent Situation of Copyright Law and Other Licensing Issues for DH in Japan, Copyright and humanities research
3. 学会等名 A global perspective, DARIAH working group ELDAH (Ethics and Legality in Digital Arts and Humanities) and the CLARIN CLIC (CLARIN Legal and Ethical Issues Committee) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 永崎研宣
2. 発表標題 デジタルアーカイブを取り巻く最近の状況
3. 学会等名 第121回人文科学とコンピュータ研究会発表会 企画セッション「デジタルアーカイブ構築をとりまく最前線」, 於慶應義塾大学 日吉キャンパス, (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 永崎研宣
2. 発表標題 Text Encoding Initiativeのご紹介
3. 学会等名 学術XML推進協議会第8回総会・講演会, DMZ CAFE イベントスペース(東京) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kiyonori Nagasaki
2. 発表標題 Toward an Ecosystem for a Digital Research Environment for Buddhist Studies
3. 学会等名 International Conference on Buddhist Canons, 於仏光山(台湾)(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 永崎研宣
2. 発表標題 デジタル環境を活かした文字画像共有システムの構築
3. 学会等名 漢デジ2019, 於北海道大学文学研究院(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 永崎研宣
2. 発表標題 IIIFについての最新情報
3. 学会等名 「異分野融合による「総合書物学」の構築:文化・情報の結節点としての図像 IIIF Curation Viewer チュートリアル」於国際日本文化研究センター(京都)(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 永崎研宣
2. 発表標題 人文学はどこに向かうのか? - デジタルがもたらす可能性と課題
3. 学会等名 Galeシンポジウム2020「デジタル人文学への誘い 第2回」, 大阪府立国際会議場(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Naoki Kokaze, Kiyonori Nagasaki, Yuta Hashimoto, Ayano Kokaze, and Makoto Goto
2. 発表標題 Towards Constructing An Ecosystem for Digital Scholarly Editions of East Asian Historical Sources: With the Focus on the TEI-Markup of the Engi-Shiki
3. 学会等名 Digital Humanities 2019,Utrecht (The Netherlands) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上聡
2. 発表標題 東京大学史料編纂所における字形データの蓄積経緯と花押データへの展開
3. 学会等名 CODHシンポジウム「日本文化とAIシンポジウム2019 AIがくずし字を読む時代がやってきた」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上聡
2. 発表標題 所史資料調査の現状と展望 ~本所所蔵『往復』を中心に~
3. 学会等名 近代修史事業と史料集編纂の150年(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 遠藤珠紀
2. 発表標題 シンポジウム佐藤進一の軌跡ーいま、「中世国家」を問うー 佐藤進一氏と「王朝国家」論
3. 学会等名 中世史研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金子拓
2. 発表標題 賀茂別雷神社の算用状から何がわかるのか 歴史学と会計学から
3. 学会等名 東京大学ヒューマニティーズセンター・オープンセミナー
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金子拓
2. 発表標題 杉山清彦氏報告「武人政権としての大清帝国と日本近世国家」に寄せて
3. 学会等名 東京大学ヒューマニティーズセンター・オープンセミナー（コメント）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 尾上陽介
2. 発表標題 The Konoe Legacy: Precedents Passed Down Over A Millennium
3. 学会等名 USC Kambun Workshop (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Taizo YAMADA, Satoshi INOUE
2. 発表標題 A Common Base of Knowledge for Japanese Historical Materials and its Application
3. 学会等名 2018 Pacific Neighborhood Consortium Annual Conference and Joint Meetings (PNC) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田太造
2. 発表標題 複製による日本関係史料の収集とその永続的管理
3. 学会等名 国際シンポジウム「デジタル時代における人文学の学術基盤をめぐって」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Taizo YAMADA
2. 発表標題 Data Sharing Method Related to Japanese Historical Materials by Japanese Calendar Cording
3. 学会等名 International Workshop on Spatio-Temporal Knowledge, Center for GIS(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金子拓
2. 発表標題 「武功書上・家譜と『地域的軍記』の成立 大坂の陣における佐竹氏の場合」
3. 学会等名 東京大学史料編纂所国際研究集会「合戦のイメージから実像を考える」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金子拓
2. 発表標題 『信長公記』諸本における陽明文庫所蔵本の位置づけ
3. 学会等名 陽明文庫設立80周年記念特別研究集会 最新の研究成果の報告と陽明文庫の過去と未来 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西田友広
2. 発表標題 「武家の王権と文字」
3. 学会等名 「Herrschaft im Spiegel der Geschichte. Die Chronik Azuma kagami (Spiegel des Ostens) / 『吾妻鏡：歴史記録に映る支配の諸相』」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伴瀨明美 (Akemi BANSE)
2. 発表標題 Noble Women as Court Attendants in Early Medieval Japan (panel topic "Negotiating Tensions: Rituals and Changing
3. 学会等名 Association of Asian Studies Annual Conference (国際学会) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 尾上陽介
2. 発表標題 史料編纂所による陽明文庫の調査と史料集刊行の学術的意義
3. 学会等名 陽明文庫設立80周年記念特別研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 後藤 真, 橋本 雄太
2. 発表標題 とくにじんもんこんに関係の深いデータセット概観
3. 学会等名 人文科学とコンピューターシンポジウム2018」(じんもんこん2018)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nicholas Laiacona / Kiyonori Nagasaki / Naoki Kokaze / Makoto Goto
2. 発表標題 2018 IIIF Conference Connecting TEI and IIIF
3. 学会等名 2018 IIIF Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Makoto Goto
2. 発表標題 The Current Issues on Location Information in a Large-scale Database
3. 学会等名 International Workshop on Spatio-Temporal Knowledge (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Makoto Goto
2. 発表標題 Construction of humanities resource infrastructure in the National Institutes for Humanities, Japan
3. 学会等名 3rd International Workshop on the Academic Asset Preservations and Sharing in Southeast Asia (Tentative) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 後藤 真
2. 発表標題 Introducing Digital Humanities Project in National Museum of Japanese History
3. 学会等名 Digital Humanities Workshop, KU Leuven, Faculty of Arts, + National Museum of Japanese History (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 永崎研宣
2. 発表標題 デジタルアーカイブにおける研究基盤の提供と読解の支援 SAT大蔵経DBにおけるサービスの現在と今後 ,
3. 学会等名 情報知識学会創立30周年 第26回 (2018年度) 年次大会記念講演 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kiyonori Nagasaki
2. 発表標題 Interoperable Digital Images for DH via IIIF including Buddhist and other materials
3. 学会等名 Han Nom Workshop In Vietnam, Institute of Information Technologies
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 永崎研宣
2. 発表標題 文化資源学がデジタルに期待し得ること: SAT大蔵経データベース2018版を事例として,
3. 学会等名 文化資源学会展望プロジェクト「文化資源の現在」 第7回研究会, 於お茶の水女子大学 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 永崎研宣
2. 発表標題 文字情報データベースにおける IIIF 活用の可能性と課題,
3. 学会等名 シンポジウム「文字情報データベースの保存と継承」, 於京都大学人文科学研究所本館 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高田智和
2. 発表標題 『石塚漢字字体資料』と『漢字字体規範史データベース』
3. 学会等名 シンポジウム「文字情報データベースの保存と継承」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高田智和
2. 発表標題 日本語研究のデジタル画像コンテンツ
3. 学会等名 NINJALセミナー「国立国語研究所の言語資源」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井上聡
2. 発表標題 研究機関による歴史データベースの構築について
3. 学会等名 歴史学研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 尾上陽介
2. 発表標題 陽明文庫所蔵史料のあれこれ
3. 学会等名 第13回陽明文庫講座
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山田太造
2. 発表標題 日本史史料データプラットフォーム構築に向けた取り組みと課題
3. 学会等名 第24回人文科学とコンピュータシンポジウム「じんもんこん2022」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山田太造
2. 発表標題 史料編纂所における日本史史料の収集とその管理
3. 学会等名 Workshop of Frontiers in Humanities research Data Management in conjunction with DH2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山田太造
2. 発表標題 研究データとしての日本史史料
3. 学会等名 データインフラストラクチャー整備公開シンポジウム 2023
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 金子拓
2. 発表標題 読んだあとの書状の残り方 佐竹文書から
3. 学会等名 国史談話会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計33件

1. 著者名 山家浩樹（担当）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 226
3. 書名 尊経閣善本影印叢書75 『碧山日録』2	

1. 著者名 尾上陽介ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 264
3. 書名 『尊経閣善本影印集成71 公秀公記・実隆公記・建治三年記』	

1. 著者名 本郷恵子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 朝日新聞出版	5. 総ページ数 277
3. 書名 室町将軍の権力	

1. 著者名 馬場 基	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 270
3. 書名 佐藤信（監修）新古代史の会（編）『テーマで学ぶ日本古代史』社会・史料編 古代の史料 5 木簡 古代の史料	

1. 著者名 Makoto Goto, Satoru Nakamura, Chifumi Nishioka, Arianti Ayu Puspita, Taizo Yamada, Yuta Hashimoto, Natsuko Yoshiga, Tatsuki Sekino, Naoki Kokaze, and Shohei Yamasaki	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミシガン大学出版局fulcrum	5. 総ページ数 216
3. 書名 Japanese and Asian Historical Research in the Digital Age	

1. 著者名 伴瀬明美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 17
3. 書名 服藤早苗・高松百香編著『藤原道長を創った女たち 望月の世を読み直す』	

1. 著者名 本郷恵子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 284
3. 書名 院政 天皇と上皇の日本史	

1. 著者名 上野誠・蜂飼耳・馬場基	4. 発行年 2019年
2. 出版社 新潮社	5. 総ページ数 126
3. 書名 万葉集であるく奈良	

1. 著者名 永崎研宣	4. 発行年 2019年
2. 出版社 樹村房	5. 総ページ数 238
3. 書名 京都大学人文科学研究所共同研究班編『日本の文化をデジタル世界に伝える』	

1. 著者名 下田正弘、永崎研宣	4. 発行年 2019年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 383
3. 書名 デジタル学術空間の作り方 仏教学から提起する次世代人文学のモデル	

1. 著者名 高橋秀樹、櫻井彦、遠藤珠紀	4. 発行年 2019年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 293
3. 書名 『史料纂集 勸仲記』6	

1. 著者名 橋本政宣、金子拓、岸本真実、遠藤珠紀	4. 発行年 2019年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 250
3. 書名 『史料纂集 兼見卿記』7	

1. 著者名 田島公編（遠藤珠紀）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 388
3. 書名 『禁裏・公家文庫研究』7（「『院中御湯殿上日記』（天正一六年正月～三月記）の紹介」）	

1. 著者名 金子拓	4. 発行年 2020年
2. 出版社 戎光祥出版	5. 総ページ数 112
3. 書名 実像に迫る 長篠の戦い 信長が打ち砕いた勝頼の“覇権”	

1. 著者名 金子拓	4. 発行年 2020年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 234
3. 書名 信長家臣明智光秀	

1. 著者名 小島道裕・田中大喜・金子拓ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 402
3. 書名 古文書の様式と国際比較	

1. 著者名 黒嶋敏・金子拓ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 296
3. 書名 戦国合戦 大敗 の歴史学	

1. 著者名 田島公・島谷弘幸・名和修・恵美千鶴子・藤井恵介・山口英男・藤原重雄・尾上陽介・木村真美子・末柄豊・藤井譲治・名和知彦・糸賀優理	4. 発行年 2020年
2. 出版社 科学研究費補助金・基盤研究(S)「天皇家・公家文庫収蔵史料の高度利用化と日本目録学の進展」	5. 総ページ数 36
3. 書名 『陽明文庫講座 図録1』	

1. 著者名 畑山周平	4. 発行年 2019年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 296
3. 書名 「木崎原の戦いに関する基礎的研究」(黒嶋敏編『戦国合戦 大敗 の歴史学』)	

1. 著者名 後藤 真、橋本雄太、山田太造、中村 覚、北本朝展、天野真志、関野 樹、鈴木卓治、永崎研宣、大河内智之	4. 発行年 2019年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 208
3. 書名 歴史情報学の教科書 歴史のデータが世界をひらく	



1. 著者名 馬場 基	4. 発行年 2018年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 360
3. 書名 日本古代木簡論	

1. 著者名 前田雅之編（遠藤珠紀）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 544
3. 書名 『画期としての室町』（「伝えられた知識と失われた知識」）	

1. 著者名 金子拓（編著）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 321
3. 書名 長篠合戦の史料学 いくさの記憶	

1. 著者名 伴瀬明美	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 324
3. 書名 辻浩和・長島淳子・石月静恵編『女性労働の日本史 古代から現代まで』	

1. 著者名 名和修、糸賀優理、徳仁親王、木村真美子、金田章裕、藤原重雄、尾上陽介、末柄豊、田島公、金子拓、松澤克行	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京大学史料編纂所	5. 総ページ数 33
3. 書名 陽明文庫設立80周年記念特別記念研究集会記念図録 - 最新の研究成果の報告と陽明文庫の過去と未来 -	

1. 著者名 畑山周平	4. 発行年 2018年
2. 出版社 戎光祥出版	5. 総ページ数 320
3. 書名 「戦国期南九州の有力領主」(戦国史研究会編『戦国時代の大名と国衆』)	

1. 著者名 Kiyonori Nagasaki	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Contexts of Digital Humanities inJapan , Digital Humanities and Scholarly Research Trends in the Asia-Pacific	5. 総ページ数 310
3. 書名 IGI Global	

1. 著者名 榎原雅治、小瀬玄士	4. 発行年 2018年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 438
3. 書名 史料纂集 新訂増補兼宣公記 第一	

1. 著者名 本郷恵子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 中山書店	5. 総ページ数 344
3. 書名 原田誠一編『外来精神科診療シリーズ メンタルクリニックのこれからを考える』中世の日本人にみる不安と癒し 歴史学の立場から	

1. 著者名 渋谷綾子・天野真志・石川隆二・小倉慈司・尾上陽介・後藤真・高島晶彦・中村覚・貫井裕恵・野村朋弘・本郷恵子・山田太造・山家浩樹	4. 発行年 2023年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 240
3. 書名 古文書の科学	

1. 著者名 尾上陽介・島谷弘幸・恵美千鶴子・藤井讓治・遠藤珠紀	4. 発行年 2023年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 450
3. 書名 『禁裏・公家文庫研究』第九輯	

1. 著者名 名和修・尾上陽介・田島公・山本登朗・島谷弘幸・遠藤珠紀・小塩慶・藤原重雄・新井重行・佐竹朋子・木村真美子・末柄豊	4. 発行年 2023年
2. 出版社 藤原印刷	5. 総ページ数 46
3. 書名 『陽明文庫講座図録』4	

1. 著者名 川西 裕也、中尾 道子、木村 拓	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 498
3. 書名 壬辰戦争と東アジア	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>史的文字データベース連携検索システム <a href="https://mojiportal.nabunken.go.jp/ja/">https://mojiportal.nabunken.go.jp/ja/</a>  Hi-CAT Plus <a href="https://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/w81/search">https://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/w81/search</a>  史料集版面ギャラリー <a href="https://www.hi.u-tokyo.ac.jp/publication/dip">https://www.hi.u-tokyo.ac.jp/publication/dip</a></p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	本郷 恵子 (Hongo Keiko) (00195637)	東京大学・史料編纂所・教授  (12601)	
研究分担者	尾上 陽介 (Onoe Yosuke) (00242157)	東京大学・史料編纂所・教授  (12601)	
研究分担者	金子 拓 (Kaneko Hiraku) (10302655)	東京大学・史料編纂所・准教授  (12601)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	井上 聡  (Inoue Satoshi)  (20302656)	東京大学・史料編纂所・准教授    (12601)	
研究分担者	永崎 研宣  (Kiyonori Nagasaki)  (30343429)	一般財団法人人文情報学研究所・人文情報学研究部門・主席 研究員   (82683)	
研究分担者	山家 浩樹  (Yambe Koki)  (60191467)	東京大学・史料編纂所・教授    (12601)	
研究分担者	久留島 典子  (Kurushima Noriko)  (70143534)	神奈川大学・国際日本学部・教授    (32702)	
研究分担者	馬場 基  (Baba Hajime)  (70332195)	独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・都城発掘調 査部・室長   (84604)	
研究分担者	伴瀬 明美  (Banse Akemi)  (90292797)	大阪大学・人文学研究科（人文学専攻、芸術学専攻、日本学 専攻）・准教授   (14401)	
研究分担者	高田 智和  (Takada Tomokazu)  (90415612)	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・研 究系・教授   (62618)	
研究分担者	後藤 真  (Goto Makoto)  (90507138)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・准教授   (62501)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携研究者	遠藤 珠紀 (Endo Tamaki) (10431800)	東京大学・史料編纂所・准教授  (12601)	
連携研究者	小瀬 玄士 (Kose Genshi) (30634026)	東京大学・史料編纂所・助教  (12601)	
連携研究者	畑山 周平 (Hatayama Shuhei) (30710503)	東京大学・史料編纂所・助教  (12601)	
連携研究者	中村 寛 (Nakamura Satoru) (80802743)	東京大学・史料編纂所・助教  (12601)	
連携研究者	劉 冠偉 (Liu Guan-Wei) (70910917)	東京大学・史料編纂所・特任研究員  (12601)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 International workshop on Frontiers in Humanities Research Data Management in conjunction with DH2022	開催年 2022年～2022年
---	--------------------

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
その他の国・地域	台湾中央研究院		